

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

祛湿剂 利水渗湿剂 4

<p>ぼういおうぎとう 防已黄耆湯</p>	<p>衛氣不固・風水</p>	<p>防已 12g・黄耆 15g・甘草 6g・白朮 9g・生姜 3g・大棗 3g 水煎し服用する。</p>
<p>金匱要略</p>	<p><主治> 衛氣不固・風水 浮腫、汗が出る、悪風、尿量減少、身体が重だるい、舌質が淡、舌苔が白、脈が浮などを呈す。 衛氣不固・風湿 肢体や関節が重だるく痛む、汗が出る、悪風、尿量減少、舌質が淡、舌苔が白、脈が浮などを呈す。 <病機> 脾肺気虚による衛氣不足と水湿停留があり、衛虚に乘じ風邪が侵襲して水湿と結びつき、肌腠に停積して水腫を呈したり（風水）、経絡を阻滯して痺証を引き起こす（風湿）。風水、風湿の病理はほぼ同じである。 肺は氣を主り外は皮毛に合し、脾は氣血生化の源で肌肉を主る。脾虚で生化が不足すると肺も虚し、皮毛、肌肉の衛氣が不足して固表衛外の機能が低下し、風邪の侵襲を受け易くなる。また、脾虚で水湿の運化が低下し、肺虚で津液の宣降が不足して水道を通調できないために、体内に水湿が停積する。風邪が肌表を侵襲すると、衛氣が宣發できなくなって悪風が生じ、衛氣が邪と相争するため不足している固摂の能力がより低下し、津液（營）が漏出して自汗になる。一方、風邪が肺の宣發を失調させ水道不利が増強すると同時に、すでに停留している水湿を引動するので、水湿が肌腠に氾濫して水腫が生じたり、経絡に停滯し痺阻して疼痛やしびれを引き起こす。水湿が停留し水道が不利になるので尿量は減少し、肌肉、経絡に水滯があるために身体が重だるい。脈浮は邪が表にあることを、舌質が淡、舌苔が白は氣虚挟湿を表わしている。 <方意> 風邪在表に対しては祛風解表すべきである。ただし、衛氣不固であるから、単に解表すると表を損傷することになって邪も除けないので、益氣固表と、祛風行水を同施し、扶正祛邪する必要がある。 祛風行水の防已に益氣固表、行水消腫の黄耆を配合すると、補氣によって行水の効力が強まり、相互に助け合って固表しつつ祛風することができる。健脾利湿の白朮は運化を促進し營衛を生化し、黄耆を補助して益氣固表、利湿を強める。甘草・生姜・大棗は、營衛を調和すると共に、培土和中に働く。全体で益氣固表と、祛風の効果が得られ、脾が健運し水道が通利して、風湿、風水を除くことができる。 <参考> 本方（防已黄耆湯）の服用後の注意として、皮膚中を虫がはうような感じがするのは衛陽回復の兆候であり、腰以下が冷えるときは積極的に衣類で温め、衛陽を振奮させて微汗を出させるとよい。 加減法 湿盛には、茯苓皮・薏苡仁あるいは五皮散・五苓散などを加える。 腹満には、枳殼・陳皮などを配合する。 日本での保険適応効能、効果 色白で筋肉軟らかく水ぶとりの体質で疲れやすく、汗が多く、小便不利で下肢に浮腫をきたし、膝関節の腫痛するものの次の諸症；腎炎、ネフローゼ、妊娠腎、陰嚢水腫、肥満症、関節炎、癰、癤、筋炎、浮腫、皮膚病、多汗症、月経不順</p>	
<p>ぼういぶくりょうとう 防已茯苓湯</p>	<p>益氣通陽・利水</p>	<p>防已 9g・黄耆 9g・桂枝 9g・茯苓 18g・甘草 6g <防已黄耆湯 - (白朮・生姜・大棗) + (茯苓・桂枝)>に相当する。</p>
<p>金匱要略</p>	<p>主治は、「皮水の病たる、四肢腫れ、水氣は皮膚中にあり、四肢 𩇛𩇛 として動くもの」。</p> <p>衛陽が虚して、水を行らすことができないために生じた水腫（皮水）で、水と氣が皮中で結びついて筋肉がびくびく引きつるものに用いる。</p> <p>防已黄耆湯に比し、祛風利湿の木防已を、利水効果がやや勝る漢防已にかえ、茯苓の利尿効果を、血管拡張により血行を促進する桂枝によって強めている。桂枝も軽度の利尿作用をもつ。ただし、白朮・大棗のもつ健脾の効果がなくなっているので、補益性は防已黄耆湯より劣る。</p> <p>即ち、防已・茯苓は除湿し、桂枝は通陽して利水を強め、黄耆は益氣実衛し、甘草は調中に働く。通陽利水に重点がある。</p>	